

学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信
令和5年11月発行
— 第8号 —

【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

♡ 褒められる状態を用意する ♡

標題は、友人のこども園の園長先生が出版した「どうせ叱るならもっと上手に叱ってくれない？」という著書の中の一文です。

先日、本クラブの保護者の方から、「最近、子どもが宿題をして帰ってこなくなりました。何とか言ってやってください！」と頼みごとをされました。

早速、訪れてみるとそれぞれがおしゃべりしながらもカバン等を片付けると、宿題に一番に取り組む子、自分の興味のあることに向かう子等、色々です。「Y先生、何しに来たの？」と聞かれ、「実は、宿題をしている様子を見たくてきたの。」と返すと、みんな一斉に取り組み始めました。久しぶりに一人一人を観察すると、1年生でも相当な漢字が混じった書き取りもありました。たった半年の間にこれだけ学習が進んでいるのかと思うと、子ども達のがんばりに頭が下がりました。「すごいね！もう、書き終わった！」と称賛すると、ニコニコ笑顔が返ってきました。小学校へ進学すると、多くの大人が子どもに期待するレベルが上がってしまいがちです。幼児時代のように、周囲が小さな成長を認めて褒めていくことがきっと減ってしまうのでしょう。

子どもの小さな頑張りを見つけて、周囲が認めたり、褒めてあげられる機会が増えるといいですね。

◇ 11月のおたのしみ ◇

- 戸外活動
- 11月の壁面製作
- 落ち葉製作
- まつぼっくり製作

11月の学童児童数

	10月末 在籍数	11月利用 なし人数	11月 入所人数	11月 初日人数
1年生	9	0	1	10
2年生	10	2	0	10
3年生	1	0	0	1
計	20	2	0	21

児童の様子

体育大会も終わり、11月になりました。過ごしやすい季節になり、戸外活動の時間も増え、鬼ごっこやドッチボールなどを思いっきり楽しむ子どもたちの姿が見られるようになりました。

さて今回は10月中旬に行った切り紙製作について紹介します♪折り紙製作が好きな子が多く、色々な作品を作る子どもたちですが、ある友達が切り紙の本を持ってきたことから切り紙に興味をもち、楽しむ姿が見られるようになりました！「これは秋の紅葉の公園をイメージしたの♪」「これはクリスマスの景色だよ！」と色々な季節をイメージして作っていました(*^▽^*)さすが小学生♪自分たちでテーマを考え、友達と一緒に作品を作る姿にほっこりした気持ちになりました♡



夏をテーマに画用紙に切り紙を貼っていくよ！

私は「ハロウィン」がテーマ！お化けのお城を作りたいな♪



私も作りたい！一緒に作ろう♪



花火を作った！色鉛筆でも描いてもっと花火っぽくするぞ！

出来上がった作品は11月に持って帰ります♪楽しみにされてくださいね(*^▽^*)

◇ 11月の目標 ◇

「やさしい言葉で伝える！」

さんこう児童クラブでは、学年関係なく、とても仲良く色々な活動をして過ごしています♪

しかし～！最近はお互いがよすぎるからこそ、友達に対して少し強い言い方になってしまっている子どもも。そんなつもりはなくても友達を悲しい気持ちにさせてしまう、ということがたまにあります。そこで、友達に対して優しい言葉で伝えられるように関わっていきたいと思います！

スマホ守りより、創造的な遊びをお子様とご一緒に。

西九州大学看護学部 准教授 大家さとみ

秋も深まってきましたが、皆様は「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」等どんな秋を楽しまれていますか。日が暮れるのが早くなり、夕食の準備や急ぐ用事がある時などにお子様がぐずったら、ついスマホの映像を見せてしまうことはありませんか？

子供の脳と発達について研究をされておられるお茶の水女子大学名誉教授の内田伸子先生は、「スマホに子守をさせると脳が委縮してしまいます。子供の脳を刺激する知的な遊びを取り入れましょう。それによって、子供たちの知能はぐんぐん伸びていきます」と指摘されています。アメリカの発達心理学者が2ヵ月～24ヵ月の乳幼児1800名の言語発達や知能について6年間追跡調査した結果によると、「スマホなどの映像を1日1時間以上視聴させていた群は、言語能力が遅れていたという共通点が見つかった。」そうです。

iPhoneやiPadを世に送り出したアップルの創業者の一人であるスティーブ・ジョブズ氏は、自分の子どもにはこれらの製品を使わせず、他のデジタル機器も触れる時間を厳しく制限していたそうです。また、マイクロソフトの創業者の一人であるビル・ゲイツ氏も自分の子どもたちには14歳まで携帯電話を持たせず、夕食のときは取り上げていたそうです。このようなローテク子育ては、これらシリコンバレーの成功者だけでなく、欧米のハイテク企業のトップたちも身体活動や、芸術、体験学習などを重視し、12歳未満の使用を禁止する子育てを行い、スマホ等の害からわが子を守っていたそうです。

また、東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏も、著書「スマホ依存が脳を傷つけるデジタルドラッグの罠」の中で、「子どもの脳はスマホの影響を受けやすい。デジタル機器の早期からの使用で、思考やコミュニケーションを司る脳の知的中枢である前頭前野の活動が抑制される。」と警鐘を鳴らしています。

最初にご紹介した内田伸子先生は、「子どもの知能は、親子で一緒に指先を使ったクリエイティブな遊びをすることで伸びていきます。子ども自身に考えさせる遊びを体験させると子どもの目の輝きがどんどん変わっていきます。」とも言われています。子どもが好きな積み木での見立て遊びやごっこ遊びの中で、たくさん想像力を働かせることにより、言語能力等の発達を促していくのではないのでしょうか。

私は4歳と2歳の孫の興味（要求）に応じて、積み木やブロック遊び、砂遊び、ボール投げ、絵本の読み聞かせなどを一緒にするのが楽しみです。遊びの中でいろいろなことを創造し、言語能力が高まっていくことを実感しています。

お忙しいとは思いますが、特に脳の発達が著しい乳幼児期はスマホ守りに頼らず、少しだけ手を休めて、お子様との手先を使った遊びを増やしてみられませんか。親子の会話が弾み、お子様の言語能力も向上するのではないかと思います。